

2017年11月16日
株式会社インプレスR&D
<https://nextpublishing.jp/>

インターネット新世紀！
『iINTERNET magazine Reboot』電子版も同時発行！
インプレスグループ創設 25 周年特別企画

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D は、11 月 16 日、『iINTERNET magazine Reboot』の電子版を発行いたしました。

『iINTERNET magazine Reboot』
<https://nextpublishing.jp/isbn/9784844398028>



编者:インプレスR&D
小売希望価格:電子書籍版:1,194 円(税別)
電子書籍版フォーマット :固定 EPUB
ISBN:978-4-8443-9802-8
発行:インプレス R&D

<< 発行主旨・内容紹介 >>

本書は、インプレスグループ創設 25 周年を記念して、かつて発行していた月刊誌『iINTERNET magazine』を 1 号限定で復刊する『iINTERNET magazine Reboot』(インターネットマガジンリブート)の電子版です。(書店向け単行本版の発行は株式会社インプレス)。

『iINTERNET magazine』は、日本の一般社会にインターネットを普及させることを目的に、1994 年にインプレスが創刊した雑誌です(2006 年休刊)。2017 年度にインプレスグループが 25 周年を迎えるにあたり、記念事業として 1 号限定で復刊し、黎明期のインターネットの秘話から、インターネット新世紀と言える最新トレンドまでを掲載しています。

この電子版では、付録のマップは本文の最後に画像として収録しています。

単行本版に付属している冊子「インターネットマガジン創刊号(1994 年)復刻版」は付属しておりません。
(本電子版は、次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

11 月 13 日公開 書店向け単行本版発行リリース

<https://www.impress.co.jp/newsrelease/2017/11/20171113-01.html>

インタビュー ジョン・マルコフ氏



ジャーナリスト、元ニューヨーク・タイムズ記者

ジョン・マルコフ

【・・・インタビュー(ジョン・マルコフ)・・・】

現在使われているコンピューター技術が生まれたのは1960～70年代、80年代にパーソナルコンピューター(PC)が登場し、90年代にはWWWでインターネットが爆発的に普及、ネットが世界中の隅々まで浸透する日も近い。ジャーナリストとして、そうしたテクノロジーの誕生や社会の変化を見届け、AIに関する著書も持つジョン・マルコフ氏。ニューヨーク・タイムズを退社したばかりの彼に、シリコンバレーでインテリジェント・エッジ・イノベーションや社会とテクノロジーの関係について聞いた。

マイクロプロセッサからWWWの誕生を追いかけて

Q: 昔年、ニューヨーク・タイムズの記者としてテクノロジーや科学の動向を追ってこられました。ご自身の足取り自体が、シリコンバレーのテクノロジーの進歩を物語るものになります。テクノロジーを取材し始めたのはいつですか。

大学院を終えて生まれ育ったカリフォルニアに戻ったのが1977年で、「シリコンバレー」という名前が生まれて3～5年が経っていました。当時はまだコンピュータ時代で、目に興味を持ったのはマイクロプロセッサの影響です。ツラランサーとして、マイクロプロセッサの社会への影響を考えた記事を書き、その後でパシフィック・ニューズサービスという小さなニューズ配信会社に就職し、これが全米の主要紙に掲載されました。

Q: 1980～70年代に起こったアーバン・ネット(DARPAnet)、AI、ロボットのマホク、ハイパーテキスト、GPSなどのテクノロジーの普及は、国防高等研究計画局(DARPA)の補助金を受けました。1982年、DARPAに 常務理事兼局長(OPD)が設立された際、副社長に就任したのは、民間通信会社出身の

』にミッドウェイデザイナーで、彼のビジョンが裏手を働いたとされますが、実際にはどうだったのでしょうか。

知らぬ間にコンピューターについて巨大なビジョンを持っていた。ヴァネヴァ・ブッシュを含む「軍事防衛知識人」グループの1人がリサーチデザイナーで、DARPAはソ連の人工衛星がブレイク・スクリューに不意を突かれたアメリカが、その後の技術的脅威を避ける目的で設立しました。リサーチデザイナーの大半は、国防省を無難に引き寄せたことにはあります。リサーチデザイナーは「超常コンピュータネットワーク」という構想を持っており、コンピュータを互いにつなげることに興味があると見ていました。優秀な科学者たちを見出し、思う存分研究させました。且、はつきりさせましたが、1970年代に5年～10年間のDARPAはいよいよ独断的な組織でした。

Q: PCへと集約対象が移っていた経緯を教えてください。

私はホームブリューコンピュータクラブ(シリコンバレーにあった初期のコンピュータを趣味とする人々のユーザーグループ)によく顔を出していて、この美しい産業について書くのが楽し

かったのです。1981年、PCを普及させた最初の書籍「ソフトウェア」に執筆しました。PCは、ホビイスト(イタカ)から始まったことで、ほかの産業とは異なるに思っていました。スタートアップは最初からそこにいたし、ビョグウィフはホビイスト相手に満足していました。

Q: その後「ハイ」誌に執筆します。

1984年です。アップル、マイクロソフトの動きなど、PC産業で起きているあらゆることを取材し、その後、サンフランシスコエグゼクティブに移りました。そのころには、これはほんのネットワークの時代だとLANがもたらされたが、結局大きくは盛り上がりませんでした。盛り上がる、シリコンバレーはビョグウィフとシリコンバレーとシリコンバレーに支えられたテクノロジー時代から時代化になり、その後、1993～95年にドットコム時代に入りました。私がホームブリュー(WWW)について最初の記事を書いたのは1993年12月に行いました。優秀な科学者たちは登場していませんでした。1995～96年のインターネットの爆発より前に、コンピュータネットワークのインパクトについて執筆していたのは、ごく一部の記者でした。

Q: WWWについてはどんなきっかけがあったのですか。

当時デジタル・ライティング・コーポレーション(DIC)の研究所にいたブライアン・ワードと協力があつた。彼があるとき「WWW」を見せてくれたの

AI ビジネス始動 スマートスピーカーカタログ

#product SMART SPEAKER CATALOG

アメリカでのAmazon Echoの人気を受けて、さまざまなベンダーからスマートスピーカーが相次いで登場している。Alexaに対抗して音声アシスタント機能を搭載したGoogleだけでなく、iOSのSiriを連携するAppleも参入するなど、一層競争が激化している。(価格情報は2017年10月現在の発売資料による)。



[Echo]
メーカー Amazon
価格: 15,000円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
スマートスピーカーの先駆けとなるEchoは、音声だけで操作可能な音声アシスタント機能を搭載している。Alexaという音声アシスタント機能を搭載している。Alexaは、音声だけで操作可能な音声アシスタント機能を搭載している。Alexaは、音声だけで操作可能な音声アシスタント機能を搭載している。



[Echo Plus]
メーカー Amazon
価格: 24,800円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
Echo Plusは、Echoよりも高音質のスピーカーを搭載している。Echo Plusは、Echoよりも高音質のスピーカーを搭載している。Echo Plusは、Echoよりも高音質のスピーカーを搭載している。



[Echo Show]
メーカー Amazon
価格: 22,800円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
Echo Showは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。Echo Showは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。Echo Showは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。



[Google Home]
メーカー Google
価格: 15,000円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
Google Homeは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。Google Homeは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。Google Homeは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。



[Clava WAVE]
メーカー Clava
価格: 14,000円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
Clava WAVEは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。Clava WAVEは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。Clava WAVEは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。



[LF-950G]
メーカー Sony
価格: 20,000円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
LF-950Gは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。LF-950Gは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。LF-950Gは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。



[HomePod]
メーカー Apple
価格: 34,800円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
HomePodは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。HomePodは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。HomePodは、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。



[VC-FLK1]
メーカー 音響機器
価格: 28,800円(税込) 発売: 2017年10月27日(4月版)
VC-FLK1は、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。VC-FLK1は、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。VC-FLK1は、Echoと同様に音声アシスタント機能を搭載している。

SMART SPEAKER CATALOG

ブロックチェーンのジレンマ ブロックチェーンを使った電力ネットワークの出現

#blockchain
[...] ブロックチェーンのジレンマ [...]



ブロックチェーンを使った電力ネットワークの出現

中央管理型と分散型ネットワークはどう共存・進化するか

大塚 謙彦 ■Blockchain 2017年11月17日

ブロックチェーンは、元来、暗号通貨ビットコインを実現するためのコア技術であったが、その応用は金融分野だけでなく、医療、公共、IoTなど多様な領域にも広がりを見せている。その応用領域の1つが電力取引である。これは、暗号通貨とは違い、電力ネットワークを流通経路とする電気の実物の取引が行う。ブロックチェーンを使った電力取引とは

どのようなのだろうか。

電力ネットワーク上の200万件を越える「生産消費者」

トーマス・エジソンの時代に発明された電力ネットワークは、需要地から離れた場所にある大発電所で発電された電気を送電線・変電所・配電線など

を経由して需要地に届けるものだ。この電力ネットワークでは、電気の流れが発電所から需要家へと常に一方通行であった。この形態は100年近くほとんど変化せずに現在に至るが、近年変化の兆しが見えてきた。

屋上屋下いれる需要家は電気を消費するのみだったが、安価になった太陽光発電で電気を生産する「生産消費者（プロシューマー）」が用いている。2016年12月まで住宅用の太陽光発電導入件数は全国で200万件を越えている^{※1}。さらに、蓄電池、家庭用エネルギー貯蔵や調整可能な負荷などがネットワークの本格に普及されている。これらはDistributed Energy Resource、分散型エネルギーリソースと呼ばれる。今まで中央集中式で作られていた電気が分散して作られるようになったのである。

太陽光発電のオーナーは、発電した電気を自家消費するとともに、余剰電気を配電網に流し電力会社に売電するのが主眼である。2009年から続いた余剰電力買取制度（2012年からは固定額

※1 需要家側の電力調達、電力取引を可能にする企業やプロジェクトの例

LO3 Energy (アメリカ)	分散型再生エネルギー・グリーン・ジャンクティブ Grid プラットフォームを開発し、太陽光発電、風力発電を包括で提供するプラットフォームでプロジェクトプロジェクトを開発。
Power Ledger (オーストラリア)	需要家が稼いだ太陽光や風力発電の過剰電力を販売するための電力取引プラットフォームを開発。各プロジェクト間でリアルタイム決済を行う需要家同士のP2P取引をサポートする。
Grid+ (アメリカ)	短期的には短期調達を有利にし電力小売の効率化を目指す。長期的にはP2P市場をサポートを目指す。
Conjure (ドイツ)	電力会社や再生エネルギーのEnergy IDを基に分散型電力取引プラットフォームを開発。電力需要家同士のP2P取引をサポートする。
東京大学など (日本)	電力流通システムを構築中。類似のプロジェクトは既に開始されている。
パナソニック (日本)	プラットフォームが需要家側側面に設置するスマートインターフェイスを開発し、家内での電力取引を可能にする。太陽光発電で発電した電気を蓄電池を利用して販売。

※1 一般財団法人エネルギー総合戦略センターの調査データ。2017年10月現在

インターネットが求める真の信用取引基盤とは

ビットコインを形成し、スマートコントラクトを実現する技術として注目されるブロックチェーン。インターネットのエンドポイントを結ぶプラットフォームとして期待がかかるも、その根拠は分散型のネットワークだということである。果たしてそれは本当か。ブロックチェーンの活用事例と技術考察から、ブロックチェーンが抱える課題を解説する。

Blockchain 2017年11月17日

INTERNET magazine Review 2017 069

<<目次>>

- #interview ジョン・マルコフ、村井 純
 - #reboot インターネット新世紀——デジタルの力で産業・社会を再始動せよ！
 - #AI AI ビジネス始動——ディープラーニングを即戦力にする
 - #city 世界のスタートアップ都市——未来のユニコーンを育む起業家と投資家の集積地
 - #blockchain ブロックチェーンのジレンマ——インターネットが求める真の信用取引基盤とは？
 - #media メディアクライシスを乗り越えろ——自由と技術発展がもたらしたメディア産業の危機
 - #platform マストドンと分散型サービスへの回帰
 - #column インターネットの視点
 - #share “責任者探し”の時代はそろそろ終わり？
 - #talk なぜ日本からGoogleが生まれなかったのか？、インターネット牽引者の立ち上げ秘話
 - #xtech X-Tech がビジネスを変える——医療や決済、移動など社会の課題解決に挑戦
 - #5G ポストインターネットが実現する交通インフラ革命
 - #security データ社会の利便性とプライバシー
 - #tool 世代別利用率に見るアプリ事情
 - #product スマートスピーカーカタログ、未来体感プロダクト
 - #IoT さあIoTを始めよう！——手作りから全国展開を支える製品／サービスまで
 - #community インターネット的地域活性化のすすめ——ITのインパクトが生きる現場で働く
 - #education グーグルで働くエンジニアが母校で特別授業
 - #special ネット企業のリーダーが語る新世紀へのメッセージ
- ほか
- ・インターネットキーワード進化マップ
 - ・プロバイダー接続マップ復刻版

【株式会社インプレス R&D】 <https://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレスR&D(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井芹昌信)は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishingを使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>



株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:唐島夏生、証券コード:東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。2017年4月1日に創設25周年を迎えました。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105
TEL 03-6837-4820、電子メール: np-info@impress.co.jp